

オンラインでの語学授業の実践 ーベルリン自由大学言語センターの場合ー

ベルリン自由大学言語センター

城戸寿美子

フォーラム・ルール大学外国語教育研究所

白木美依

概要

2020年3月から始まったドイツのロックダウンにより、ベルリン自由大学言語センターでも、オンラインによる日本語の授業が開始された。ワクチン接種が開始され、ドイツでは少しずつ日常が回復してきているが、大学での授業は今後もまだ暫くはオンラインが予定されている。

この発表では、教室用に考案された口頭技能中心の授業をどのようにオンライン授業に応用したか、また、オンライン授業での漢字を含む日本語の文字の指導など、学生へのアンケート調査を基に改善を試みた1年について紹介するとともに、今後の課題や、更なる改善点について発表する。

発表の流れ

1. ベルリン自由大学言語センターでの日本語教育
2. 対面授業からオンライン授業へ：夏学期（2020年4月から7月）
3. コロナ禍前後での変化
4. オンライン授業に関するアンケート調査
5. アンケート調査の結果及び分析
6. 冬学期（2020年11月から2021年2月）
7. オンラインの特性を生かして可能になったこと
8. 現在の課題と今後について

1. ベルリン自由大学言語センターでの日本語教育

言語センターでの日本語講座：

- 独自に作られた 口頭技能を重視するCan-do
- 基礎日本語の授業は、聴解と発話を中心
- 作業は全て ペアないしグループによる協働学習

2. 対面授業からオンライン授業へ: 夏学期2020

2020年3月半ばに、ドイツのロックダウンの開始。

→ 現在に至るまで遠隔授業が主流である。

2020年4月13日から開始予定だった夏学期は、1週間遅れの20日スタート。

→ 2週間でオンライン授業への全面的な切り替え

2020年夏学期の使用ツール

- オンライン会議ツール: Cisco Webex Training
- LMS: Blackboard

ドイツ国内では、オンライン会議ツールとしては、ZOOM、Google Meet、Big Blue Button、LMSとしては、ILIAS、Moodle、Google Classroomなど教育機関によって異なる会議システムを利用している。

3. コロナ禍前後での変化

▶ LMSの利用

連絡及び宿題の配布のみ → テスト機能の利用開始（小テストのみ）

▶ 文法問題

授業中に口頭で確認 → Word で書き提出

▶ 漢字学習

読みを確認・書かせて書き順などの訂正 → 読みを確認するのみ

▶ 漢字テスト

問題をディクテーションし書いて提出 → LMSのテスト機能で選択式

▶ 作文

原稿用紙に手書きで提出 → Wordで書き提出（コメント機能で添削）

▶ グループワーク

だいたい同じ友達と → Breakout Session 機能で毎回違う相手と（カメラ機能なし）

少人数での作業 → 変更なし

3. コロナ禍前後での変化：試験

※Blackboardのテスト機能の使用は正式な試験としては禁止された。

コロナ前	夏学期2020 Webex Training
<p>口頭試験 課題を与えて、準備をしておく。スピーチと質疑応答。</p>	<p>ビデオ越しの口頭試験。用意したメモを読み上げる学生が多く出てしまった。</p>
<p>筆記試験 Pen & Paper</p>	<p>Webex のビデオで監督しながら、一斉に試験を配信し、PCで書き、メールで提出。自動翻訳機能を使ったと思われる文章など、不正を疑う答案もあった。漢字テスト(書き)は実施できなかった。</p>

4. オンライン授業に関するアンケート調査

アンケート調査

- 調査内容：オンライン授業をどのように評価しているか
- 対象者：日本語講座受講者
- 質問数：選択式28問・自由記述式6問の計34問
- 使用ツール：オンラインツール Google Forms を使用しドイツ語で
- 調査期間：2020年7月6日から7月19日にかけて
- 有効回答者数：125名

コース名	GM2 (2学期目)	GM4 (4学期目)	AM (6学期目)	FJ (8学期目)	MA2 (大学院2学期目)	MA4 (大学院4学期目)
登録者数	81	48	20	10	6	8
期末試験受験者数	68	43	20	10	6	8
回答数	47	37	20	10	5	6

表1 学年別のアンケート回答者数, 学期末の受講者数, コース登録者数

4.1 調査方法

- 特に教室授業と比較して考えるように、注意書きをした。

選択式質問 (右は抜粋)

- 5段階尺度で、項目別に回答数と平均を出し、考察。

記述式質問

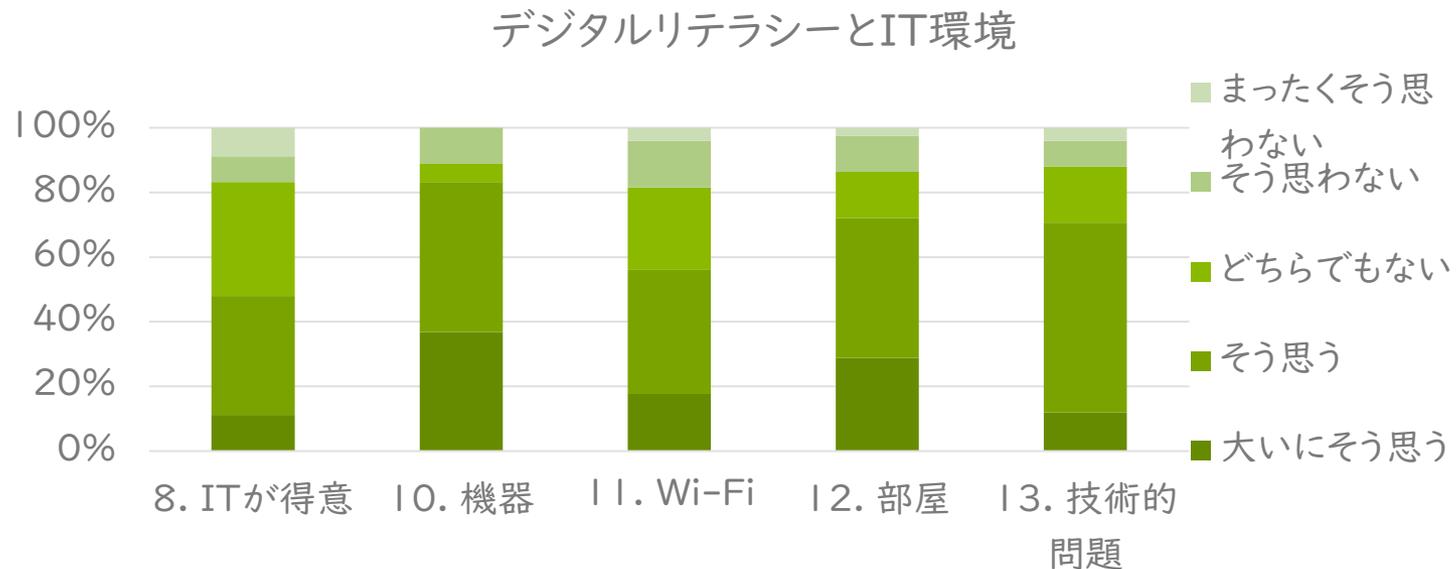
- 計量テキスト分析ソフトウェア・KHコーダーを使って大まかな特徴をつかむ。

8. 私はITは得意だと思う。
10. オンライン授業に参加するための機器 (イヤホンやマイク, カメラ, コンピューターやタブレット, Wi-Fiなど) は調べていた。
11. 家や授業を受ける場所でのWi-Fiの接続の質はよかった。
12. 静かにビデオ通話できる部屋があった。
13. オンライン授業で技術的な問題があった。(音声・接続・など)
14. オンライン授業の方が教室授業より全体として好きだった。
15. オンライン授業では, 通学時間が節約できた。
16. オンライン授業は, 気楽に参加できた。
18. オンライン授業は, 集中できた。
19. オンライン授業は, 授業内容が理解しやすかった。
20. オンライン授業は, 授業中の自由度が高かった。
21. オンライン授業では, 発言しやすかった。
22. オンライン授業では, 友達に会えないので残念だった。
23. オンライン授業では, 教師に会えないので残念だった。
24. 冬学期もオンライン授業を希望する。
25. オンライン授業では教室授業と比べて, 授業外で先生とコミュニケーションをとることが増えた。(Eメールなどを利用した質問や, 宿題のやり取りなど)
26. (増えたと答えた人は) 先生とやりとりが増えたことは問題なかった。
27. コロナで会えない状況の中でもクラスメイトと連絡を取り勉強のことで助け合っていた。
29. 今学期はアルバイトの時間が増えた。
30. 今学期は宿題が増えた。
31. 今学期は予習・復習に時間がかかった(かけた)。
32. 図書館や大学施設の利用ができなかったことで問題はなかった。

5. | アンケート調査の結果及び分析・選択式質問

- デジタルリテラシーとIT環境について
 - 学生の8割が自身のITスキルに**苦手意識**を抱いていない
 - オンライン授業への参加**環境**は約**6～8割**で整っている

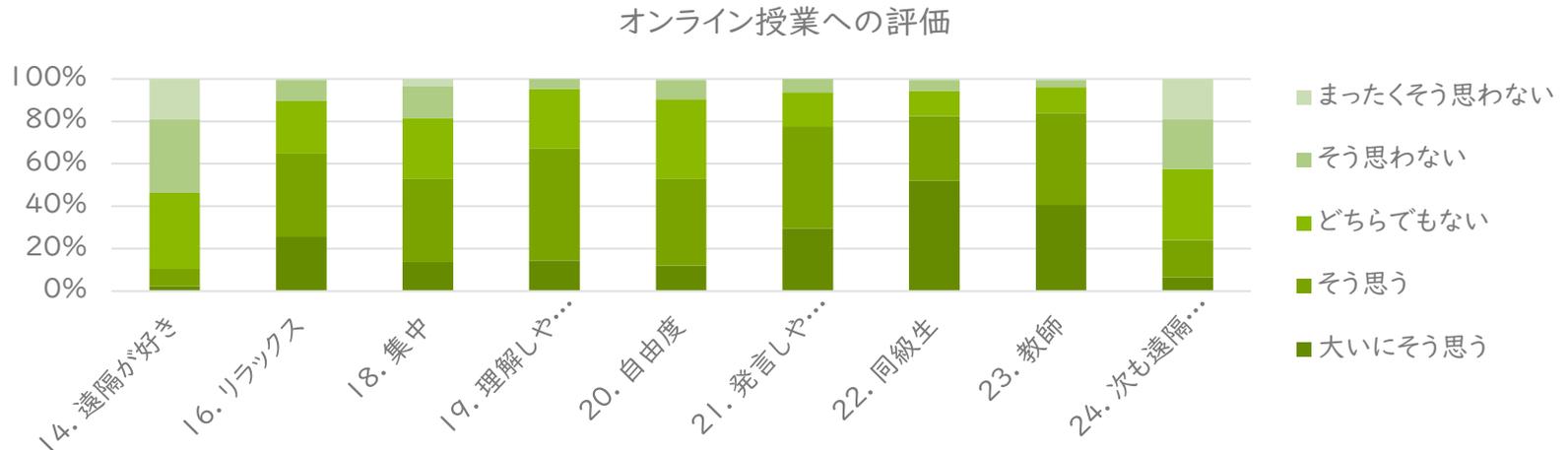
図1 デジタルリテラシーやIT環境に関する質問への全回答者の回答（質問8, 11～13）



5.1 アンケート調査の結果及び分析・選択式質問

- 教室授業と比べてのオンライン授業の評価
 - 学生はオンライン授業より**教室授業を好んでいる**
 - 次学期は教室授業を希望
 - オンライン授業では集中力が保持しやすい、理解しやすい、発言しやすい
 - 授業への参加が気楽
 - 同級生や教師と対面ができないことが残念

図2 オンライン授業への評価に関する質問への全回答者の回答（質問14, 16, 18~24）



5.1 アンケート調査の結果及び分析・選択式質問

- 授業外の活動について
 - 助け合いはほとんどの学生の間で行われている
 - 教室授業に比べて予習復習の時間が増えた
 - 約3割の学生が図書館や大学施設が利用できなかったことでの困難があった

図3 クラスメイトとの助け合いに関する質問への回答（質問27）

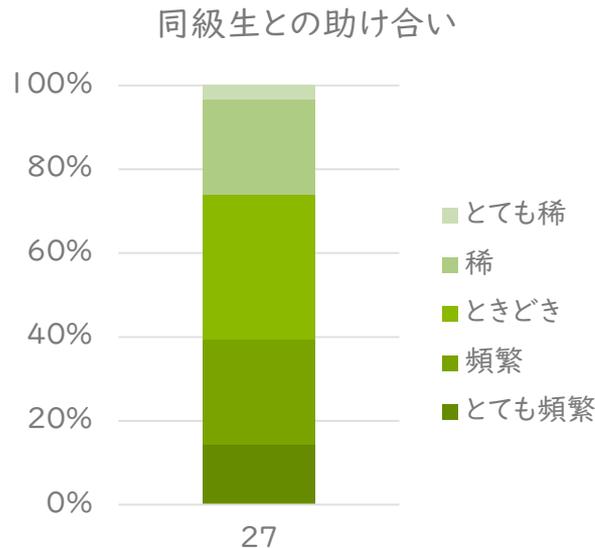
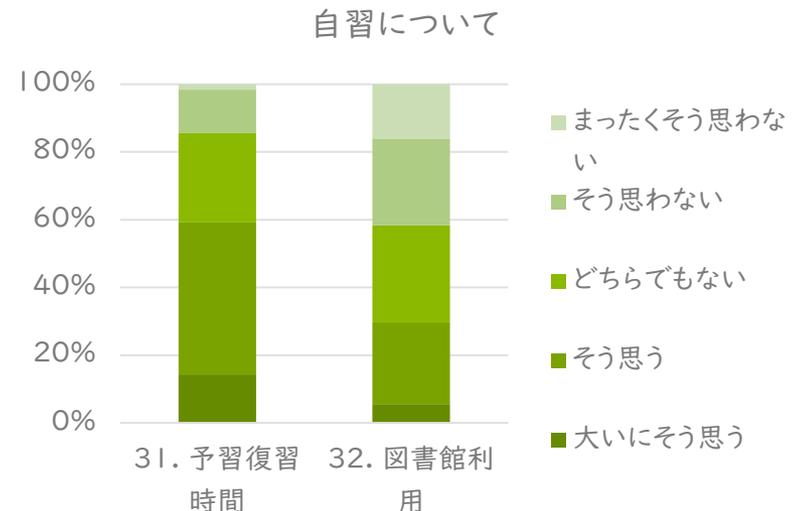


図4 自習に関する質問への回答（質問31, 32）



5.2 アンケート調査の結果及び分析・記述式質問

1. 「オンライン授業のよかった点」

- オンライン形式でも**授業がインララクティブだったこと**
- **グループワークが可能**であったこと
- LMSを利用した教材やビデオの配布および連絡
- オンラインテストの利用
- 自宅からリラックスして参加できたこと
- スケジュール管理が柔軟になったこと

2. 「オンライン授業の悪かった点」

- インターネット接続など技術的な問題
- **漢字学習**がないがしろにされたこと
- グループワークがときおりうまくいかなかったこと
- 質問する機会が限られたこと
- **社会的接触がないこと**
- グループワークのグループがいつもランダムにつくられたこと

5.2 アンケート調査の結果及び分析・記述式質問

3. 「教師に寄せられた改善点」

- 学生に**カメラをつける**ように指示してほしい
- グループワークや話す活動を増やしてほしい
- **同期型の授業時間だからこそできることにフォーカス**してほしい
- 授業の様子の録画や十分な教材をLMSで共有して、後れをとる学生がでない工夫をしてほしい

5. 「どうやって同級生と連絡をとったか」

- WhatsAppやDiscordなどのアプリを用いてのチャットやビデオ会話

6. 「自習の際に何が問題だったか」

- **モチベーションを保つことが難しい**
- 図書館が使えないこと
- **社会的接触がないこと**
- 気軽に誰かに質問ができないこと

5.2 アンケート調査の結果及び分析・記述式質問

全体として

- 教室授業に戻ることがを希望しつつも、オンライン授業へ対応する姿勢を持っていること
- 社会的接触など授業に欠けている要素は授業外に自主的に補われていること

5.3 アンケート調査・今後の改善点

- 技術的な改善
- LMSを利用したコース内容・課題の十分な共有
- オンライン授業に合わせた**授業と自習課題の調整**
- カメラをつけることを促しグループワークを取り込んで**より教室らしい雰囲気**に
- **インタラクティブな授業構成**
- 「**日本語を書く**」という取り組みはレベルごとに対応することが必要
- 同級生と知り合う機会がない新入生には協働学習を促す課題を増やす
- Breakout Sessionは、一定の期間内で同じメンバーで行うように振り分けを手動で行う

6. 冬学期（2020年11月から2021年2月まで）

- Cisco Webex Training のからCisco Webex Meetingを利用するようになった
- Breakout Session中でも、ビデオ機能が使用できるようになった

夏学期後に行った学生へのアンケート調査を基に、

夏学期から冬学期で変更した点

漢字を含む文字学習が十分に行われなかったという指摘を改善するために

6. 冬学期（2020年11月から2021年2月まで）

1. 日本語の書きの活動に関して

初級の基礎日本語：手書きを重視

- 作文や宿題は手書きで書いて写真としてメールで提出
- 漢字テストもオンラインテストの選択式から教室での漢字テストのようにディクテーションをし手書きで書いたあと、写真としてメールで提出
- タブレットなどを利用し漢字の添削も丁寧に

- 授業中の漢字学習も読みだけでなく、小型のホワイトボード利用で筆順や、書き方の説明を補う
- 授業中に漢字を書く時間を取る

6. 冬学期（2020年11月から2021年2月まで）

夏学期から冬学期に変更した点

2. 筆記試験

日本語初級クラスに関しては、**手書きで答案を書かせて写真を送信する方法**を取る。全てのツールを使用することを許可し、同時に問題量を増やすことで調べて回答しては時間的に間に合わないようにした。

3. 口頭試験

予め課題を提出することをやめ、**その場で与えられた課題に自由に意見を言い**、また、その内容に関してグループで話し合う形をとった。

7. オンラインの特性を生かして可能になったこと

▶ インタビューの授業

基礎日本語5より、日本人を招いてインタビューを行い、それについて発表するという課題が始まる。ドイツにいて日本人を授業に招待し、インタビューをするという課題は人数が集まらず難しかった。

→ オンラインということで**日本の大学に通う大学生と交流**することが可能になった。

▶ チューターの補助

週に一度決められた時間に自習室などでのサポートの提供

→ 時間的制約が少なくなり、**チューターの授業参加**が簡単になったおかげで、サポートを気軽に得られるようになった。

▶ 文書の共同作成

Google ドキュメント を使って共同作業

8. 現在の課題と今後について

- 現在の問題として、ビデオをオフにする学生が多い場合と、ビデオをオンにする学生が多い場合とで、クラスの進行状況や雰囲気が変わってくる
- ビデオオフに関して、教師の中からも不満の声
- オンライン授業による授業の進行の遅れをどう取り戻すか
- 10月以降ワクチン接種の状況から対面授業も可能になる可能性がある中、オンライン授業の良さも取り入れたシラバスの構築が求められている
- 留学が必須のコースでは、2年に渡り交換留学が成立していない